ｋａｋｅｒｕｙｕｍｅ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　武蔵野市立第五小学校

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　学校だより　　３月号

平成３０年３月１日



**これからの社会を生き抜く力を育てるために**

**校長　嶋田　晶子**

　弥生３月。今年度も最後の月となりました。学校では、来年度に向けての教育の重点を、詳細な教育計画を考えているところです。保護者、地域の皆様には、本校の教育活動に、多大なるご協力、ご支援いただいたことに心から感謝申し上げます。

　さて、多くの感動を与えてくれた第23回冬季オリンピック競技平昌大会が終わりました。メダルが獲れた、獲れないということではなく、私たちに「元気・本気・根気」があふれる姿を示してくれた選手の皆さんに「ありがとう」という気持ちでいっぱいになりました。選手の皆さんがこのオリンピックという舞台に立つまでに、どれだけの練習を積み、挫折を乗り越えてきたのだろうと思いを馳せます。人は自分で本当に実現したいという目標ができたときに、これまでにない姿を見せてくれることがあります。それは、オリンピック選手ということだけではなく、小学生の子供たちにも言えることです。

　来年度より２０２０年の完全実施を踏まえた移行措置という準備期間に入る新学習指導要領。今回の改訂では、現在の子供たちの状況とこれからの予測困難な時代を考え、現在の子供たちが活躍する２０３０年を見据えてつくられました。ここでは、「子供たち一人一人が予測できない変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である」と述べられています。そのためには、主体的に学びに向かう力や感情をコントロールする力、よりよい人間関係をつくる態度が必要であり、これは自分の行動を客観的に考えられる力へとつながります。この力が困難な出来事へ対処できる力となり、またリーダーシップやチームワーク、感性、やさしさや思いやりなどの豊かな人間性を育むこととなります。

　現代の社会は正に変化の連続で予測困難な出来事にあふれています。情報技術、ＡＩの進歩だけでなく、人口減少に伴う働き手の不足や高齢者人口の増加、公共サービスの見直しなど、現在の小学生が大人になっていく将来の具体的な写真を学校、保護者、地域がより真剣にイメージし、どんな力を付けていくことが個々の子供たちに必要なのかを考えなければいけない時代に突入してきているのです。「これまで大丈夫だったから、どうにかなるだろう」といった考えでは追いつかない時代になっていることを大人達はより切実に考えていくこと。子供たちが自分で考え、問題を解決するための力を付けていくこと。感性を豊かに働かせながら自分の可能性を発揮し、そのことがよりよい社会と幸福な人生を創る「生きる力」、これからの社会を生き抜いていく力になっていくこと。今、直面する問題に対応する力とともに長い目、広い視野をもって考える力が大切になっていきます。年度の終わりにあたり、また、来年度の教育活動の方針を考えるにあたり、保護者・地域の皆様とともに振り返り、考える機会になればと思います。

　来年度も本校の教育活動へのご支援、ご協力を何卒よろしくお願いいたします。



今年度も、残すところ１か月を切りました。日頃の清掃活動では、簡単清掃の日もすばやく、ほうきを出し掃除ができるようになりました。また、雑巾がけがすみずみまでできるようになったり、終わった後にきちんと反省会をしたりと、各学級で一生懸命清掃に取り組みました。今月は、１年間過ごした学校へ感謝の心を込めて、教室や廊下だけではなく、ロッカーや机・椅子の脚の裏などをきれいにするように指導していきます。次の学年が気持ちよく使えるようにして引き継ぎ、また４月から良いスタートをきってほしいと思います。

**３月の生活目標**

**学校をきれいにしよう　　　　　　　　　 生活指導部**